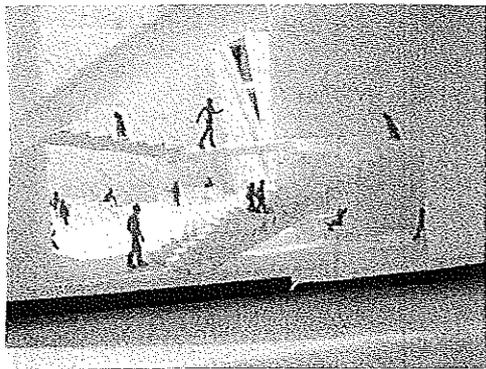


テーマ：「ウォークラリーの感想」

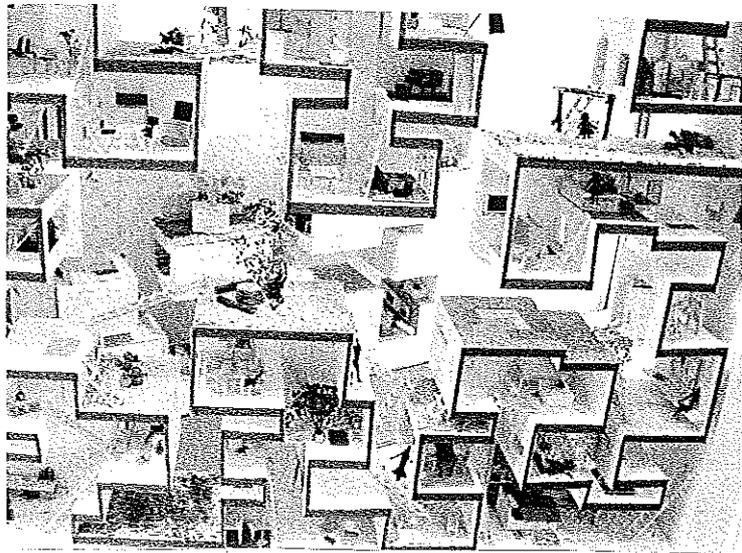
レモン展 & 講評会

まず、作品の美しさや細がさに圧倒された。レモン展に来ていた人が、年々作品が大きくなると話していたが大きくなっても細部までこだわって作り込んでいる様子が伺えて尊敬したと同時に感重れた。

また、見学者がどういふことを問題だと思っ、またはどういふ風にしていくといふか考えて、用紙にし提案している工程が知れてとても興味深かったし、卒業設計ってこういうものなのかなと少しつがめた気がした。あと、土地の文化や、特性を知る必要もあるなと感じた。



↑ 階段の作り方が参考になる。

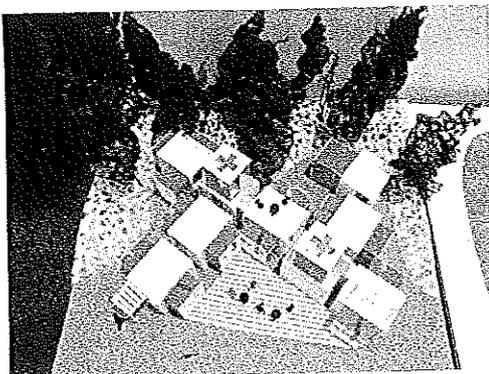


↑ 提案の目的に合わせたため

↑ 家具がどんな風になっているか、色々な事例が見えた！  
ほど

本物の作られた模型を真近に見ることによって、細部まで観察できて、どんな材料でどんな風加工しているかなど、分かってくることも多々あったので今回手に入れた知識をこれからの模型づくりにも活かしていきたいというように思った。

気になった作品



利便性の高い  
コンテナを使い  
簡易店舗等を  
設置したという  
作品。アクリル  
とその名目  
でガゼットによる  
用途の分りや  
が良いなと思ふ。



一目見て、何と  
もなかなと思っ  
素材が気になっ  
たりやと作って  
た感じ思ふ。

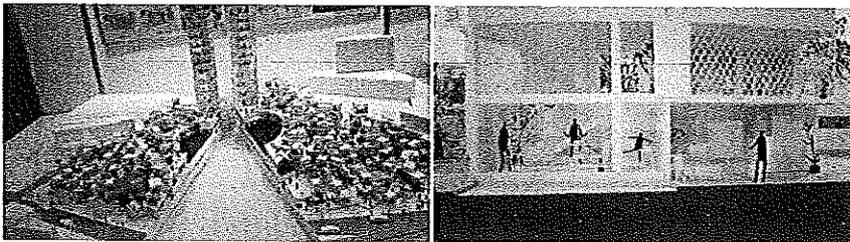
ウォークラリーに参加して 10N1073 十河佑樹 渡邊ゼミ

私は明治大学アカデミーコモンにおいて開催される卒業設計の品評会であるレモン展に見学させてもらった。

まず、1時間近くいろいろな作品を見学したのだが、どれも圧巻だった。ひとつひとつの家や人々がとても丁寧で、ものすごい集中力で仕上げたのだろうと思った。さらに、コンセプトがどれもはっきりしていて自分では思いつかないようなデザインや工夫がなされていた。

数年後、自分がこのような作品が作れるのか不安になるとともに、自由に製作できるようになるのかという高揚感が生まれてきた。

この体験を今後のいろいろな作品作りに生かしていきたいと思った。



そしてそれから品評会を見学したのだが、どれも選ばれた作品だけあって素晴らしいと思った。みんなプレゼンで自分の伝えたいことをきちんと伝えられていて、自分もこれくらいできれば望ましいなと思った。

しかし、その作品も審査員の方々から様々な指摘を受けていて、とてもレベルの高い話だと思った。

品評会后、著名な建築家である槇文彦氏のお話を聞くことができた。

世界を舞台にしてるだけあって、考え方が自分たちとは次元が違うなと思った。

とても高度で自分では理解できない部分も多々あったが、このような経験はとても珍しいだろうと思う。

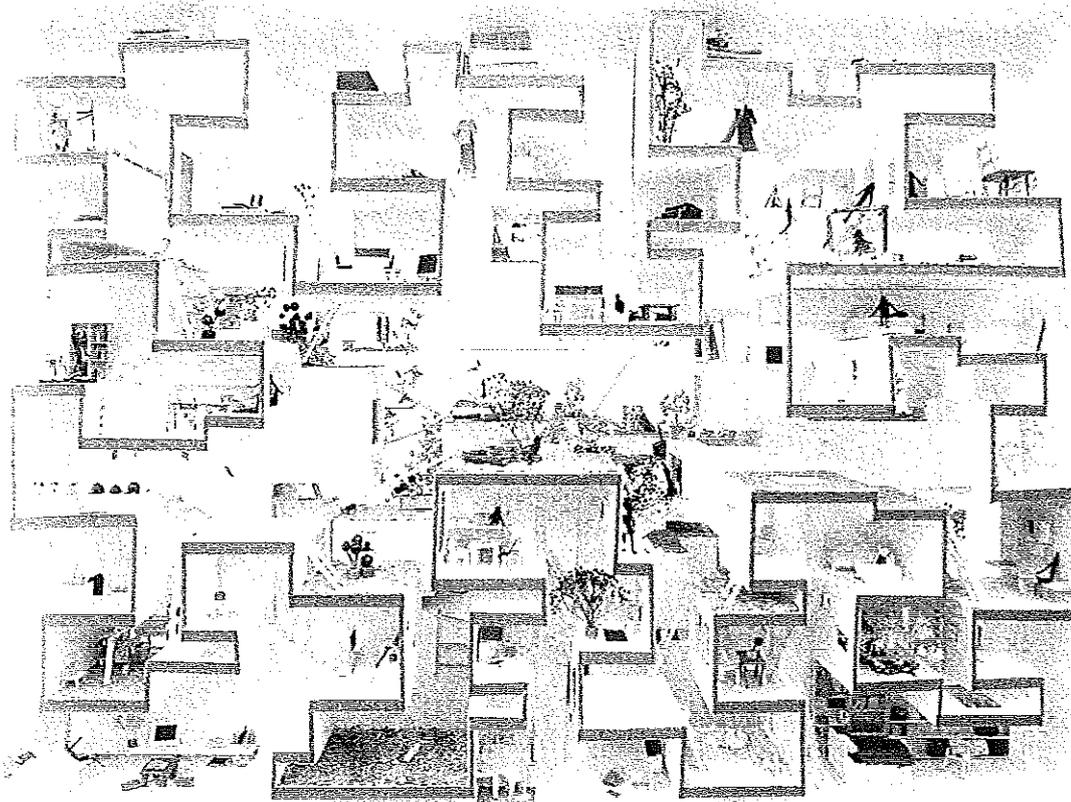
最後にこの日の経験を忘れずに日々精進していこうと思った。

第33回学生設計優秀作品の中から、深く印象に残った2作品についての自分の見解。

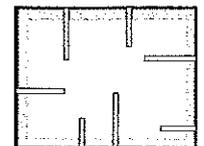
大阪大学 工学部地球総合工学科建築工学科目 向坂真理子さん

1本の帯がつくる暮らし 一枠の中の自由

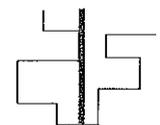
今回、作品を鑑賞することができた時間は僅かだったが、数ある作品の中でも彼女の作品には特に目を引くものがあり、とにかく発想が斬新で興味深かった。設定もシンプルで分かりやすく、1つの大きな「枠」の中にプライベートとパブリックがうまく混在していて、無駄な空間が無い。「枠」と「枠」が連なり、「帯」と「帯」が絡み合うことで、いくらでも表情が変化する。デザイン性と機能がきちんと両立されている新しい住宅の形態としての可能性があるように思う。



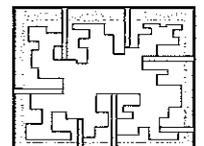
枠を作る



構造を考慮して枠が分厚くなる  
枠の内側に壁柱をつける



家を幅4,000mmの1本の帯を  
くねくねと折り白けて作っていく



帯を閉じる



帯展開図

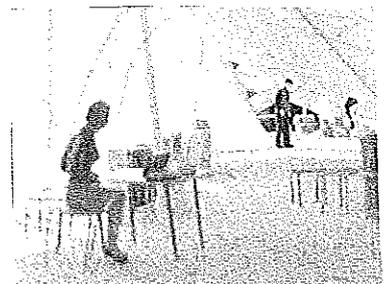
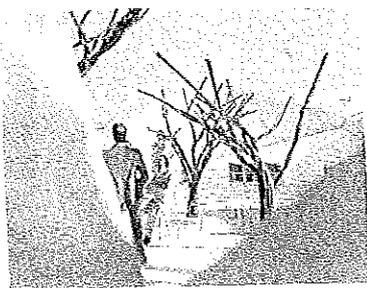
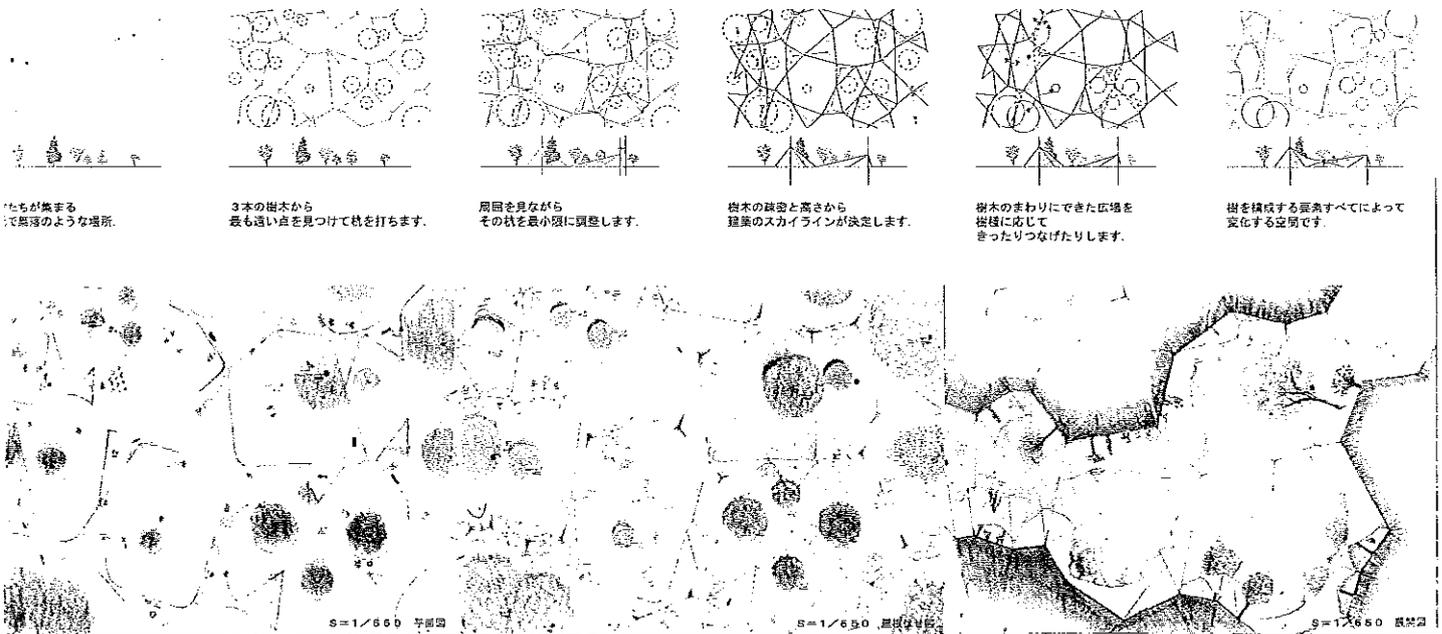
日本女子大学家政学部住居学科 宮内礼子さん

## はじめての森

—都市の中に新しい森を提案する—

行政と地元住民の意見の対立から野放しにされていた目黒区の敷地においての設計である。双方が十分に納得する設計にはなっていないかもしれないが、着眼点とコンセプトが良かったと思う。

あらゆる角度からアプローチ可能で、訪れた人を奥へと引き込むような、不思議で、魅力的な空間が構成されている。単なる森ではなく、単なる公共施設でもない中性的な性質を帯びた建築であり、これこそ風景としての建築で、自然との調和が図れているように感じた。都市の中にこのような建築があるからこそ、映えるものがある。



今回、学生設計優秀作品展を見学して、良い刺激を受けた。大きくて複雑な作品には圧倒されっぱなしだった。講評会や楨文彦先生の講演にも参加できたのは、貴重な経験だった。

もう1つ今回のウォークラリーで考えたことが、建築における男女のセンスの違いということである。優秀作品の中には女性の作品も多く含まれていて、私が印象に残ったのも、女性の作品である。一概には言えないし、形容し難いが、女性の作品には、女性ならではの視点やセンスといった要素が含まれているのかもしれない。

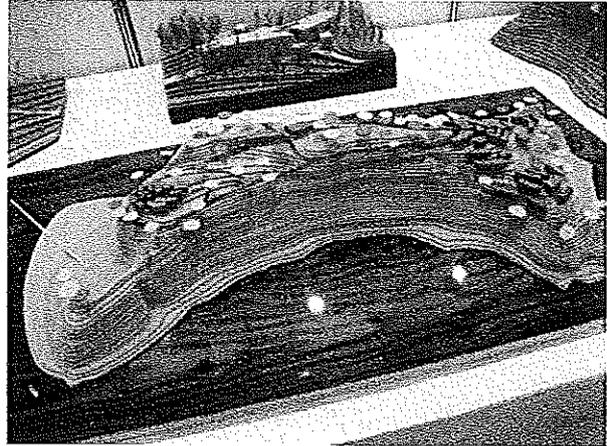
とても充実したウォークラリーになった。また来年も足を運びたい。

# ウォークラリー

～レモン展講評会～

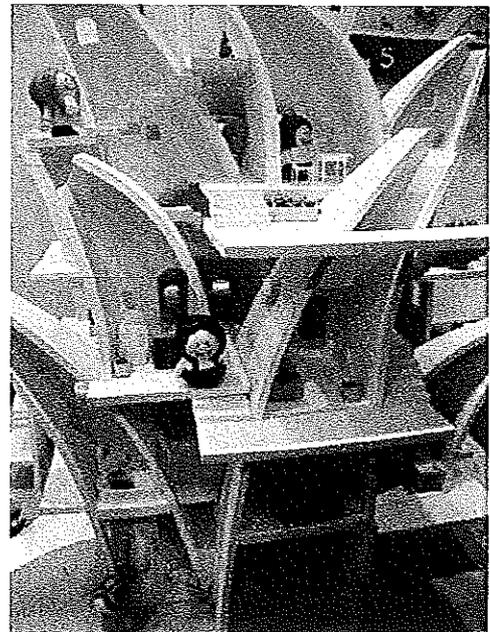
渡辺ゼミ 10N1075 高橋貴実乃

私はこのレモン展講評会を通して、卒業制作がどのようなものかというのを具体的に知ることができた。講評会に選ばれた作品への講評を聞いて、どのようなところに気をつけて作品をつくれればいいのかというのを学べたと思う。



- ・抽象化・概念化をする
- ・角度を増やして影を増やす
- ・公共性（みんなのものであって、個人のものではない）
- ・施設でどんな活動をしているのかを考える
- ・不思議な建物な場合、その不思議さを生かすといい

審査員の方々の講評はとても厳しく、プロの世界というのはこんなにも厳しいのかと少し怖くなった。どの作品も完成までにたくさんの時間を費やしたのがよくわかった。人や家具など、細かいところまできちんと再現していてとても感心した。自分も3年後に同じことをやるのかと思うと少し気が重くなった。しかしこのレモン展を通して、自分がやりたいことが少し明確になった気がする。



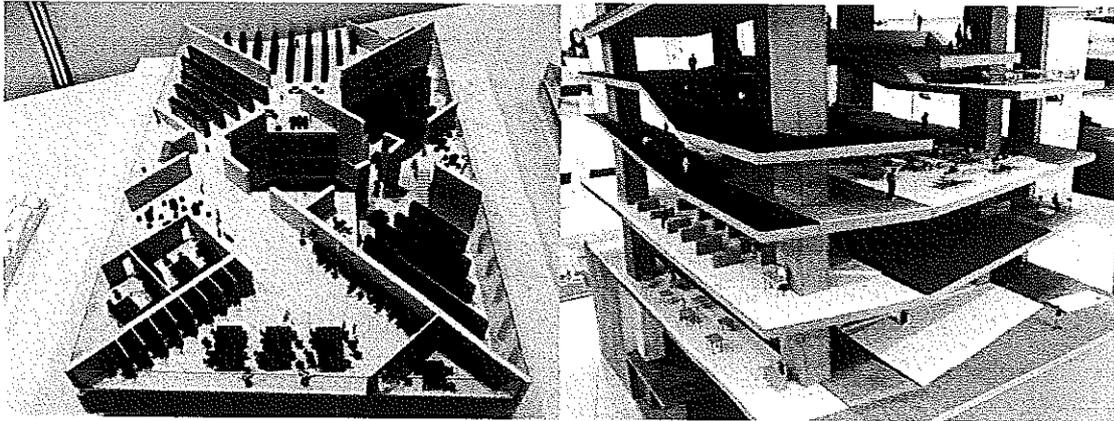


『ウォークラリーの感想』

10N1077 田上 譲 渡辺ゼミ

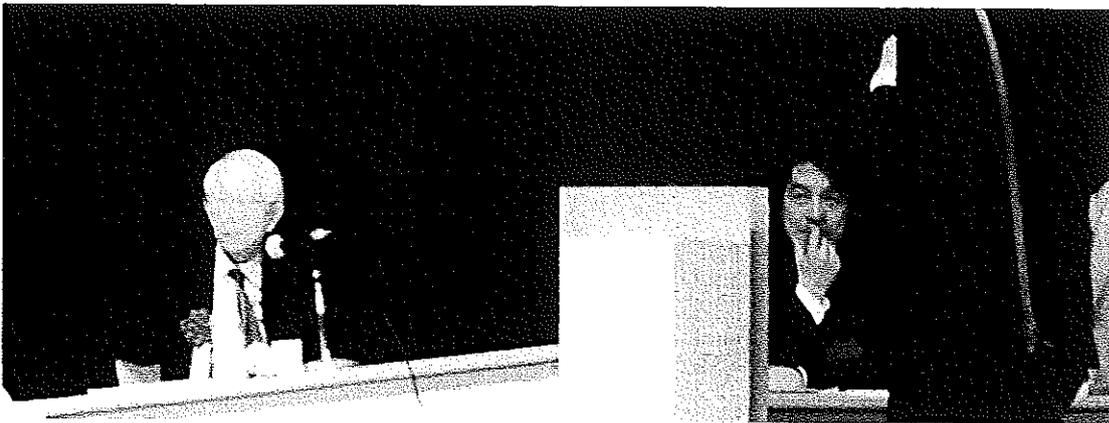
先日のウォークラリーはレモン展に参加し、優秀作品の講評会を見て、槇さんのお話を聞いただけでほとんど歩かなかったが、とても刺激的で創作意欲を掻き立てられた。

まずレモン展だが、やはり選りすぐりの優秀作品が集められているだけあって、あまりの壮大さに衝撃を受けた。そしてこれを作るために今の勉強があるんだと納得した。この日から私はぼんやりと卒業設計の案を考えて始めている。



次に講評会だが、特に印象に残っているのは、渡辺先生も含め先生方が優秀作品の作者達に酷評を浴びせていたことである。私達新入生には究極型に見えた作品がバツサリ切られ、皆動揺していたようだった。

だが私は逆にそのことで、4年後に自分の作品で審査員全員に「完璧だ」と言わせてやろうと余計に焚きつけられた。



槇さんの話は難しくほとんど覚えていないが、どうやら本職の人たちも聞きに来るほどのものだったようで、そんな風になりたいと漠然と感じた。

最初にも書きましたが、このウォークラリーは刺激的で今現在の創作のモチベーションにもなっています。またゼミとは関係ないですが、建築入門の渡辺先生の講義も面白く、それからは街歩きや美術館巡り、雑誌を読むなど精力的に行動しています。お世話になりました。

導入ゼミナール・ウォークラリーの感想

10N1078 滝 知己

自分は渡辺真理先生のゼミに所属していたので、ウォークラリーはお茶の水にある明治大学の「アカデミーコモン」に行ってレモン展を見てきた。

レモン展ではいろいろな大学から選ばれた人の作品が並べられていた。

どの作品も正確に測って作られていたし、形なども面白かった。

どうやったらこんなアイデアが浮かぶのだろうと何回も思わされた。

自分もこういう作品を作りたいとも思わされた。

まず、正確さが全然違っている。

模型をつくるのになれていないからなのか、丁寧に作ってもずれてしまう。

あと、自分が見たことない素材がたくさんあった。

これは、これから勉強して知っていくしかない。

だから、これから模型づくりに慣れていこうと思う。

模型を見たあとに、有名な建築家の方々がレモン展に選ばれた作品からさらに選ばれた十点の作品の評価をしていた。

デザイン面と実用性など、いろいろな角度からの意見がたくさん聞けた。

正直、今の自分には難しかった。

しかし、少しはわかることもあって、それを少しでも納得できたことがうれしかった。

それが終わった後に、建築家の榎さんの講演会が行われた。

以前に、ゼミで代官山にある榎さんが建てたヒルサイドテラスを見に行った。

上手く表現できないがすごいと感じた。

その榎さんの話が聞けると楽しみにしていたが、榎さんの話は、今の自分にしっかり理解できるような話ではなかった。

建築に関する知識が足りなすぎる自分にはがっかりした。

最初の目標としてこういう機会を無駄にしないような人になりたいと思う。

## 導入ゼミナール ウォークラリーレポート

10N1079 瀧本美咲 渡辺ゼミ

<建築学科の大学生として学んだ集大成を見せる場所>

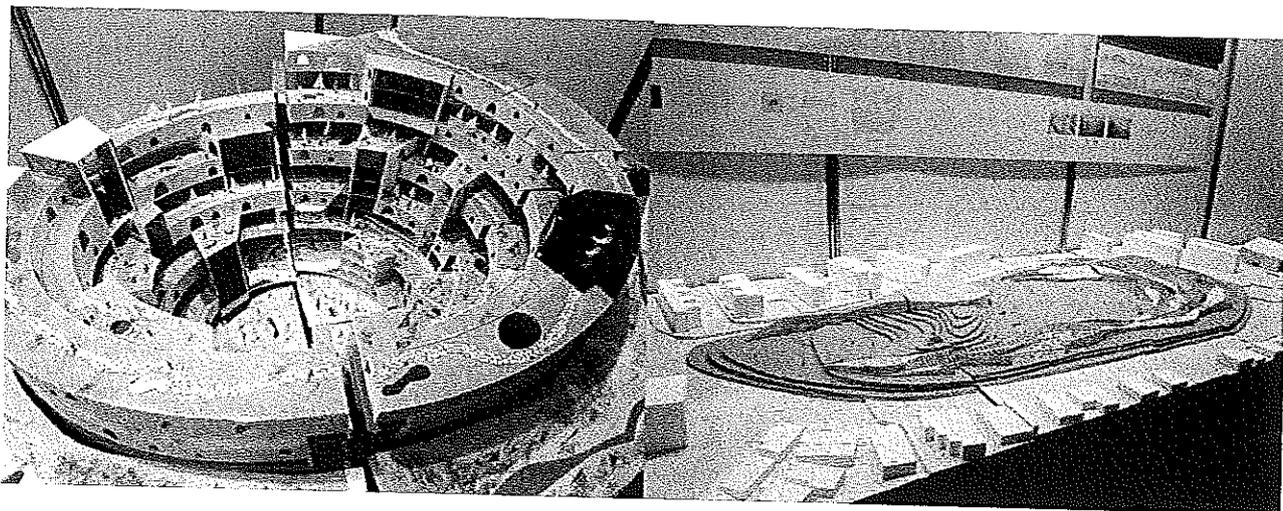
今回ウォークラリーで行ったレモン展は、それを直に感じさせるものであった。

どの作品も模型の完成度が高いうえにコンセプトがしっかりと考えられていた。ただ、面白い、人を感動させる作品、というわけではなくその作品に対する大きな想いが込められている作品ばかりだった。

レモン展に出品された作品は、建築物だけでなく町全体を構成したものなど多種多様で、建築学科で学ぶことの多さ、広さを実感することができた。

そして、これから建築を学ぶことにさらに興味をもつことができ、建築学科に入って良かったと心から思うことができた。

また、近年では集合住宅を卒業制作にすることが多くあったそうだが、今年は集合住宅以外の作品が多く見られたそう。今回選ばれた作品の中にも集合住宅のようなものがあったが私はそれも良いなと思った。



※レモン展出品の作品

今回槇さんの講演会を、作品の講評会の後に聞くことができた。

プロの建築家の方のお話を聞ける良い機会だったので楽しみにしていたが、その楽しみを越えるようなお話が聞けて良かった。世界の様々な建築物の写真を見ることができ、私も実際にその場に行って建築を体で感じたいと思った。建築を多く学んだプロの方向けの話ではあったが、私もそのような話が理解できるようになりたいと思うことができた。

また、その中で特に印象強かったのは、時と建築、空間と建築についての槇さんの考えである。建築を見るにあたって時、空間は重要なことを再確認することができた。

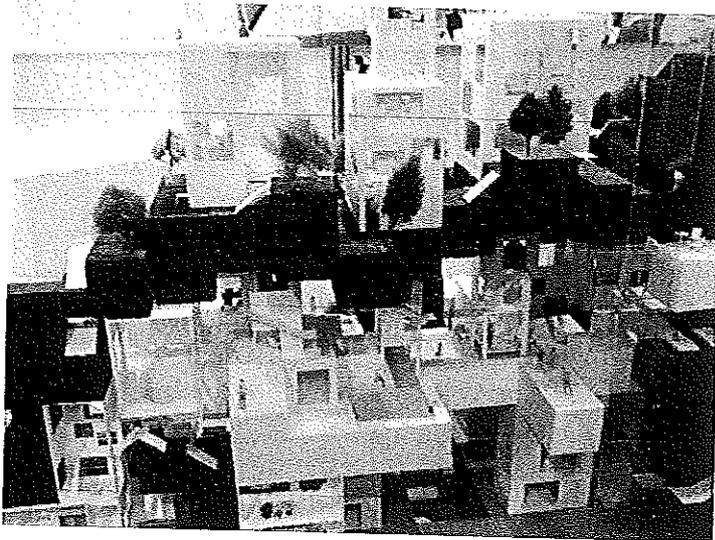
今回のウォークラリーでは、他の班とは一味違う体験をすることができた。また、このような機会があれば是非行きたいと思った。

## 導入ゼミ（ウォークラリー）のレポート

10N1081

田代 祐也

渡邊ゼミ



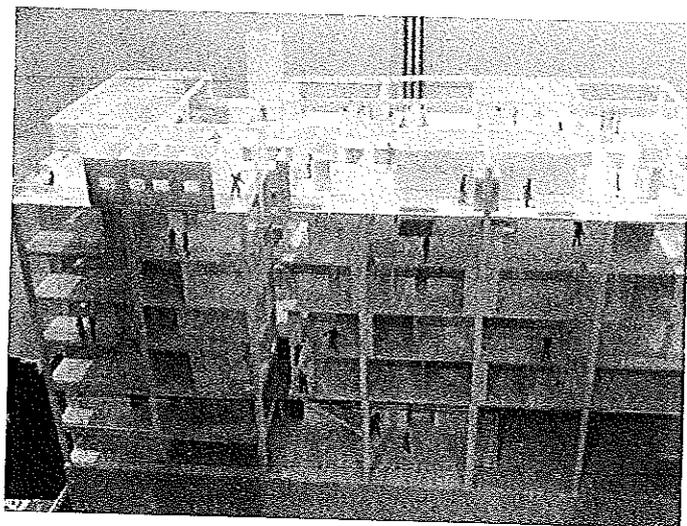
自分は今まで建築の展示会に行ったことがなかったので、今回のウォークラリーで行った LEMON 展はとても新鮮で、興味深く、いろいろな体験ができました。

自分はまだ建築を勉強し始めたばかりでどれがいい建築で、どれが悪い建築かなどの基準がよく分からず、これはなんなのだろうと思うような建築もいくつかあり、もっと勉強しなければ

と感じました。

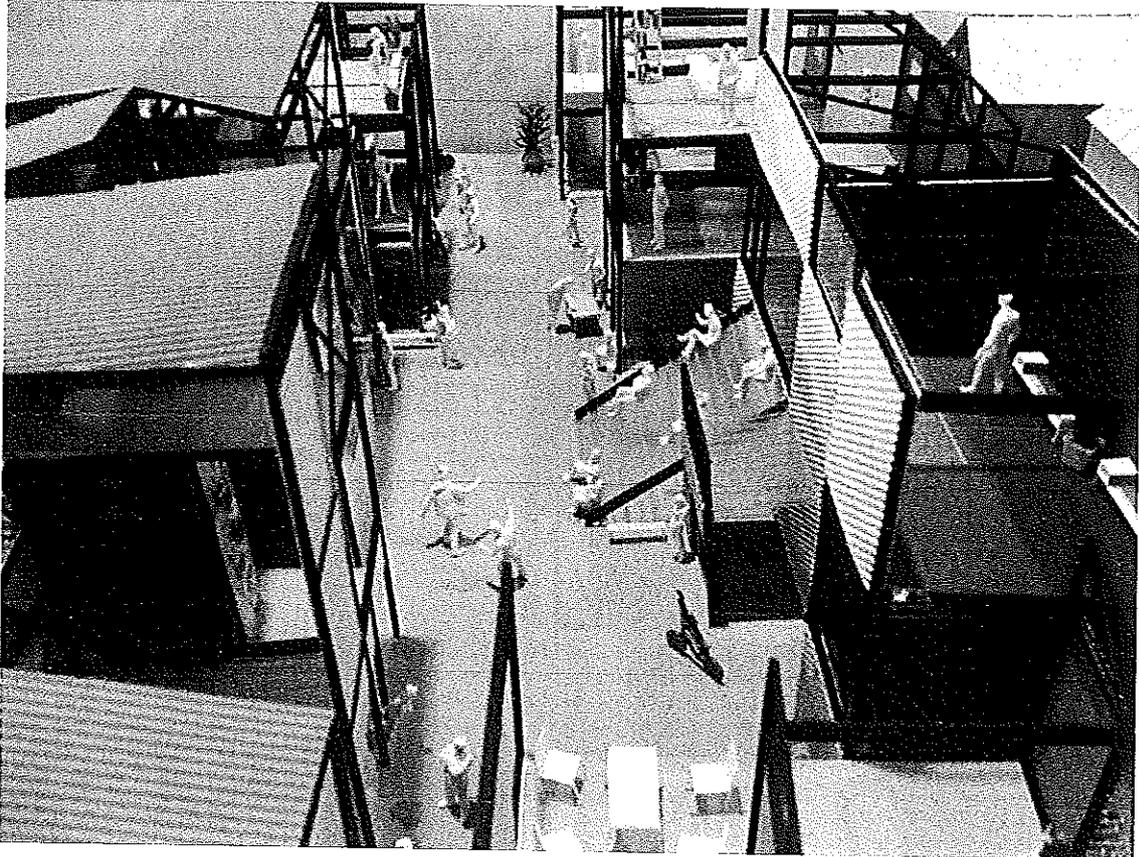
それとすべての作品がとてもきれいに作られていて、自分が学校の課題で作っていた作品とかと比べると自分の作品がとても荒いなど実感しました。

あと右の写真のように全面ガラス張りや、写真はないですが四角の立方体は何個も積み重なっていたり、これどうやってこの部屋に入るのだから、など複雑なデザインをしているものも多々あり、こんなに大胆なものでもいいのだろうかなども思ってしまいました。それとただ建物を作るわけではなく、ちゃんと場所を決めて周りの環境なども考えなければいけないのだと感じました。そして建物の模型だけでなく 1/200 などで周りの風景なども一緒に模型で作るのだと思いました。



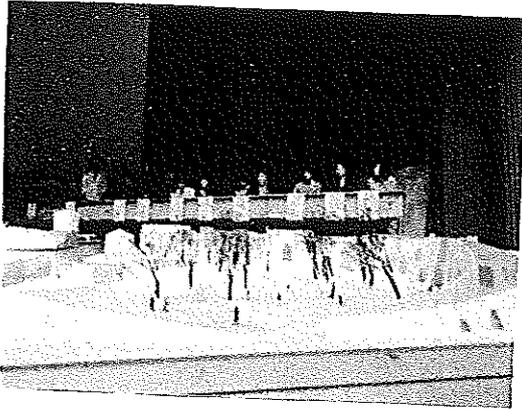
それと自分はこの下の作品が気に入っていたのですが講評会で選ばれていなく、ただ単に自分の好みだっただけかもしれませんが、どのような部分が足りなかったのか、もしくはデザイン自体がダメであったのかなど少し疑問に思っていました。

初めての経験がとても多く、講評会の話などもとても勉強になり、難しくあまり理解できてないと思いますが槇さんの話なども聞いてとても充実したウォークラリーでした。



# しもの展 講評会

10月10日 田中将大  
渡辺ゼミ



今回私は初めてしもの展を見にいきました。作品が並べてあるROOMに入った瞬間衝撃を受けました。私が予想していた作品は、いろんな住宅が並んでいるかと思っていましたが、ものすごく大きいビルディングや、ものすごく細かい家がちりばめられた町など、想像していたスケールよりかなり大きいスケールの作品がほとんどでした。

講評会で一番良いと評価された小学校の作品

は、今まで考えた考えに革命が起きました。小学校と

いえば、一般的に高さがある建物を想像しますが、

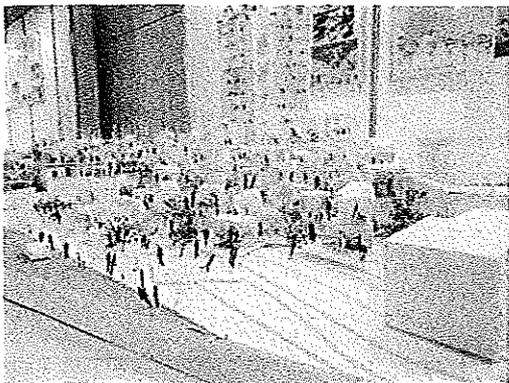
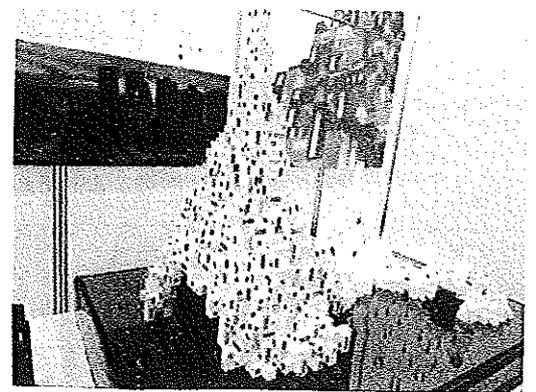
この作品は、細長く余った敷地を学校に変えて、

教室などもオープンな感じで、子どもたちが自由

に走りまわることができ、子どもにとってとても

良い環境になると思いました。私たちは建物と

敷地の間に固定概念をもっているような気がしました。



他にもいろいろな作品がありました。私が思ったことは、良い作品と講評されているものはほとんどが、機能性にすぐれているものが多かった。